

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 1頁
1. 現状の概要と今後の方向性	地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟	
<p>1. 現状の概要</p> <p>手軽に行えるフットサルの普及はサッカーファミリーを拡大するための重要なポイントである。さらに、サッカー強化への活用や、競技フットサルの強化も常に存在する課題である。県内では、フットサル委員会が主に普及を、フットサル連盟が成年男女の大会、リーグ、選抜活動など、普及に加えて強化を担当している。</p> <p>フットサル委員会では全種別大会を展開しているが、各大会は実際には種別委員会で計画、実施されており、本県においてはサッカーとフットサルがある程度シームレスな形で実施されている。また、民間フットサル施設の増加、市町村協会フットサル大会の開催、3、4種年代におけるフットサル大会参加選手数が全国トップレベルを維持できていることなど、普及についてはある程度の成果があげられている。これまでと同様であるが、女子および2種年代への普及が大きな課題である。</p> <p>ビーチサッカーについては、全国大会予選と普及のためのワンダー大会やクリニックの実施を継続し、プレー環境の整備を進めていきたい。2015年度より、北信越ビーチサッカー連盟が設立され、北信越ビーチサッカーリーグも開始されている。県内でのビーチサッカーリーグの設立は容易ではないが、新潟県ビーチサッカー連盟設立、リーグ発足も進めていきたい。</p> <p>2. フットサル・ビーチサッカーについての基本的な考え</p> <p>○フットボール文化、スポーツ文化の浸透とフットサル、ビーチサッカー</p> <p>他のスポーツと比較して、フットボール（サッカー、フットサルなど）はルールがシンプルで必要な用具も最小限であることから、フットボールは世界で最も普及しているワールドスポーツである。中でもフットサルは、腕と手でボールを扱えないという非日常性を持つフットボールに、常に生活に近いところで手軽に触れられるものである。しかし、その奥行きは深く、次第にその奥深さに魅せられていくというフットボールの特徴を凝縮したスポーツである。</p> <p>このように、フットボールとともにある生活、スポーツとともにある生活、言い換えれば文化としてのフットボールやスポーツを実現していく上で、フットサルは大きな鍵を握っていると考えられる。</p> <p>○フットボール文化のプロモート</p> <p>学校教育でも取り上げられ、メディアの露出も比較的多いサッカーについて、全くその存在を知らず、経験もないという人はほとんどいないと考えられ、フットサルについても次第に知られるようになってきている。この意味では、フットサルは、黎明期を脱して安定期へ入ってきていると考えられる。サッカーに関しても、その存在は知っていても、基本的なルールや用具の扱い、簡単な動きや身のこなし、ゲームの進め方などについても「知っている」という人は必ずしも多くはなく、引き続きサッカー、フットサルのプロモートは継続していく必要がある。</p> <p>フットサルについては、安定期におけるプロモートとして、サッカー経験者へは第2のフットボールとしてプレーを継続する機会をより多く設け、フットサルにおいても競技として高みを目指すプレーヤーをさらに増やしていきたい。この方向性については、新潟県フットサル連盟が担当していく部分が多いであろう。専門的なサッカー経験のない人にはフットボール文化への入り口として、まず手軽にプレーしていただく機会を増やすことが重要であると考えられる。この方向の取り組みについては、各フェスティバルを委員会として開催するほか、民間フットサル施設との連携が不可欠であると考えられる。</p> <p>また、より高いレベルのフットサルに多くの人が触れるためにはフットサル国際大会、各種全国大会、Fリーグ試合のプロモート、Fリーグ参加チームの誕生も目標となってくるであろう。</p> <p>これまでの中期目標であった2018年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対する現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい</p>		

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 2頁
1. 現状の概要と今後の方向性(つづき)		地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
<p>○新潟の気候とフットサル 冬季に雪や雨のために屋外でサッカーをプレーすることが困難な新潟県においては、フットサルはエンジョイプレーヤーレベルの普及においても、サッカーの強化においても大きなポイントであると考えられる。この点は3、4種年代の大会への参加チーム/選手の多さからも、県内のフットボール関係者に十分に理解されていると考える。</p> <p>○ビーチサッカーのプロモート ビーチサッカーについては、まだ黎明期であると考ええる。かつてフットサルがそうであったように、まずこのスポーツの存在そのものを多くの人に知っていただくことが大きな課題としてあげられる。ただし、20年前のフットサルの状況と異なるのは、現代のITC環境にある。情報を提供、展開するツールは身近にあり、その活用は大きなポイントであろう。とはいえ、メディアへの露出も大きなポイントであり、実際にプレーをしているところを目の当たりにしたり、プレーを経験したり、といったことも重要であり、さまざまなアプローチを試みる必要があると考える。</p> <p>3. 活動の指針 (1) 「フットサル」「ビーチサッカー」のプロモート フットサルは安定期、ビーチサッカーは黎明期とはいえ、多くの人々に知っていただく活動は継続して行っていかなければならない。学校教育でも取り上げられ、学校の運動部活動としてサッカーは広く知られているが、フットサルは学校のサッカー部ではあまり行われていない現状もあると思われる。このことは、クラブチームが優勢となっている3、4種年代の大会参加チーム/選手の多さに比較して、2種年代ではようやく全国大会が軌道に乗り始め、本県代表チームが全国優勝している現状にもかかわらず、大会参加チームが極端に少ない現状からもうかがい知ることができよう。 まず、一般的な形で以下のようなプロモートを、継続し、より積極的に行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアへの露出の増加：マスメディアとの連携 ・ICTを活用した情報展開：県サッカー協会HPの活用、フットサル連盟HPの充実、LINE、Facebookなどの活用 ・エンジョイレベルのプレー経験機会の増大－多様なフェスティバルの開催、クリニックの開催 ・より高いレベルのプレーを観戦する機会の増大－国際大会、全国レベルの大会、Fリーグ試合の誘致、Fリーグチームの誕生 <p>サッカー経験者へのプロモートとしては、サッカープレーヤーのフットサル経験を増やすことが重要であるが、新潟県内においては、3、4種年代で経験をしているプレーヤーが多く、この点はクリアされていると考える。ボトルネックとなっている2種年代については、JFA主催の全国大会が発足し、4種から1種まで大会が整備された。それぞれの大会の開催時期については今後も検討を続ける必要があることも考えられるが、大会ができたことにより、2種サッカーチームにおける認知度はアップしているであろう。しかし、大会参加チーム数増には反映されておらず、大きな課題として残っている。2種年代へのプロモートは、1種年代のプレーヤー増加につながることも考えられるため重要な課題であると考ええる。1種年代としては、民間フットサルピッチでプレーするプレーヤーは少なくはなく、この点でのフットサルのプロモートはすでに黎明期を脱していると言えよう。今後はより高いレベルを目指す競技フットサルプレーヤーを増加させることが、安定期としての課題であり、プレーレベルを上げることが重要であると考ええる。このためには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技フットサルとしての県リーグ、北信越リーグ、各種選抜活動などについての情報展開 が重要であると考ええる。 		

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 3頁
1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）	地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟	
<p>(2) エンジョイプレーヤーに対して 委員会として現在行っている、「ファミリーフットサルフェスティバル」「キッズ (U-8) & ママ フットサルフェスティバル」については、JFAの補助金を得て開催してきている。リピーターも多く、継続して行うことでエンジョイプレーヤーへのプロモートを進めていきたい。</p> <p>しかし、年度内に数回のこれらフェスティバルのみではより多くのプレーヤーを対象にすることは難しく、民間フットサルピッチとの連携は不可欠である。JFAが主催するエンジョイ5大会への参加チーム/選手の増加を目指すのみならず、情報を共有していきたいと考える。</p> <p>また、これらへの参加者にはj-futsal登録が義務付けられていることから、このこと手続きを的確に進めてもらうようガイドし、フットサル情報が広く展開できる下地を作っていく。</p> <p>(3) 4種年代について 4種年代では、バーモントカップ全日本少年フットサル大会と東北電力杯新潟県少年フットサル大会が公式大会として存在している。2つの公式大会があることが、すでに新潟県のアドバンテージである。加えて、各市町村で冬季にフットサル大会が行われており、県内サッカー関係者の苦労と工夫を知ることができる。</p> <p>バーモントカップについては、全国大会の開催時期が8月に移行したことから、県大会は3月に、地区大会は1～2月におこなわれることとなった。また、強化を目的に、各県代表が集まる北信越大会も7月に開催されることとなった。このこともあり、従来地区選抜チームで出場するケースも多かったが、単独チームでの参加も増加している印象がある。また、県大会チームの選手エントリー数も12から16名となり、より多くのプレーヤーが大会に参加できるように変更した。</p> <p>東北電力杯については、6年生にとっては最後の公式大会となるため、毎年白熱した大会となっている。バーモントカップの県大会が5年生の3月に終了してしまうため、この大会の意義は大きなものとなっており、両大会を中心に今後も4種年代は充実した活動を継続していけると考える。</p> <p>このように、4種担当者がさまざまな改善を進めているが、現在は4種サッカー登録チームのみが大会に参加できるよう、県内措置が取られている。参加チームが多く、大会運営が困難なほどであるという現状であるが、今後は単独チームから2チームが大会エントリーできないかを検討するなど、さらにプレーヤーのプレー機会の創造を進めていきたい。</p> <p>(4) 3種年代について 唯一の公式大会である、全日本ユース (U-15) 大会で2012～16年度と全国大会5連覇し、登録チーム数も常に全国上位と、県内でもっとも充実した年代である。この大会への参加チーム/選手の多さもやはり、3種年代のサッカー関係者の工夫の現れである。サッカーリーグの充実もあり、3種の過密スケジュールの中では全国大会年度内に大会を行うことができず、前年度の2月に県大会決勝が行われ、北信越大会出場チームが決定する。このため、北信越大会に向けた、出場チームの強化大会を行ったこともあったが、これをスケジュールに入れる余裕も現在ではなくなっている。現状では北信越代表3チームのうち、少なくとも2チームは新潟県代表が入っており、ここ数年は3チーム独占が続いている。改善の余地が全くないわけではないが、現状を維持しつつ、さらに参加チーム/選手が増えればと考えている。県内ではフットサル登録のみを行うチーム、サッカーチームから集めた選手で構成するためフットサル登録を行うチームも存在するがわずかである。つまりは4種と同様にサッカー、フットサルをシームレスで考えている指導者が多く存在していることを意味している。参加チーム/選手増加の伸びしろとしては、この大会に参加しないサッカー登録チーム/選手であろう。またクラブチームと比較して、中学校チームの参加が少なく、このあたりからも、3種サッカーの中心がクラブチームに移行している状況をうかがい知ることができよう。</p>		

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 4頁
1. 現状の概要と今後の方向性(つづき)		地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
	<p>(5) 2種年代について 2014年度より、全日本ユース(U-18)フットサル大会が始まり、4種から1種までフットサル全国大会が整備されることとなった。このことは、3、4種年代でフットサルプレー経験を持つ県内サッカー選手にとってはとても重要である。県大会、北信越大会、さらには全国大会を2種年代でも経験することは、選手たちの高校卒業後のフットサルプレーへの親和性を高めることにつながるであろう。</p> <p>また、公式大会があることで、高校においてフットサル部が認められることにもつながる可能性が高まる。2種年代からフットサルを中心にプレーしたいと考える子どもも少なからず存在していることが考えられ、フットサル部でなくとも、サッカー部としてフットサル大会に出場することで、部員数が確保できないサッカー部にとっても公式試合出場のチャンスが増えることになる。この点からもこの大会の意義は大きく、より発展させていきたいと考えている。なお、参加規定としては全日本フットサル選手権大会に2種年代も出場できるが、現実的にはこの数年、2種チームの全日本選手権新潟県大会への出場はなく、2種年代については、ユース(U-18)大会を中心に進めていくこととなる。</p> <p>また、この年代の選抜活動としては、日本フットサル連盟が主催するユースフットサル選抜トーナメントが2017年度まで開催されており、本県代表がめざましい成果を上げてきた。戦績としては数回の全国優勝を勝ち取っているが、何よりも大学進学後にフットサルを専門的に行う選手がより多く出現していることが大きな成果であると考えられる。日本フットサル連盟主催の大会としては2018年度以降休止するが、有志での実施が進められている対抗戦に、今後も継続して参加することで、2種年代でのより高いレベルでの大会参加の機会を増やしていきたい。ただ、選抜活動の運営には、経費、スタッフ、トレーニング、会場などさまざまな困難が伴うので、JFAからの支援金を活用したりしながら、2種年代の指導者の力を活用していきたい。</p> <p>(6) 女子について エンジョイレベル、ピギナーレベルのフットボールプレーとしては、人工芝や屋内ピッチでのプレーは汚れが少なく、ファッション性も高くなること、女性の運動能力との関連などからも、女子への親和性は高いものと考えられる。サッカーファミリー拡大のキープポイントでもある。エンジョイレベルであることから、民間ピッチとも連携してプレーヤーを増やしていきたい。</p> <p>競技レベルでは、全日本女子フットサル大会新潟県大会への参加チーム数が6から4チーム程度と低迷しており、チーム数増が求められる。全日本女子ユース(U-15)大会でも参加チームは5チーム程度であり、こちらも同様である。両大会ともに北信越大会では、全国大会出場を勝ち取ることができずにいるが、全国大会への地域代表数の決定方法が変わり、優勝・準優勝チームの地域には翌年度出場枠が付けられることから、今後チャンスが増すことが予想される。</p> <p>また、2016年度より、北信越女子フットサルリーグが発足した。新潟県からも創設メンバーとして参加チームがあり、さらに1チームが参戦している。これらのチームが継続して参加できるようサポートするとともに、さらにいくつかのチームの参加があるよう、チーム/選手数の増加を図っていきたい。このことは県女子フットサルリーグの発足ともリンクしてくる話である。県女子リーグについては、継続して活動し、大会に参加してこうとするチームが少なく、まずは北信越リーグ参加チームを中心として、女子の競技フットサルを進めていくことになっている現状であり、今度の方向性を常に検討していきたい。県リーグに関してはこれまで同様に、まずはプレ大会を実施し、試合、審判、運営などについて学ぶ機会を作り、クリニックなどにより競技力の向上を図っていく。いずれは、県リーグの上位リーグとして北信越リーグが存在する形を作っていきたい。</p> <p>女子選抜活動も継続して行っている。必ずしも戦績は伴っていないものの、活動が継続できていることがまず重要である。この活動についても、リーグ同様、継続して活動できる選手を増やすことから考える必要があり、リーグと並行して進めていくことで、成果につながるものと考えられる。経費についてはU-18選抜と同様に、JFA補助金を活用したい。</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 5頁
1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）		地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
<p>また、女子委員会事業であるが、女子初蹴りフットサル大会へのサポートを続けることで、サッカープレーヤーがフットサルをプレーする機会の創造をサポートしていきたい。</p> <p>(7) 男子トップレベル</p> <p>男子の競技フットサルを牽引するのは、北信越・新潟県フットサルリーグに所属する連盟加盟チーム／選手である。北信越フットサルリーグは、2017年度に2部化され、1部2部合わせて本件からは常時4～5チームが参加している。2018年度にはFリーグ2部化のタイミングで北信越リーグ上位の2チームが北信越リーグから抜けたため、優勝のチャンスが広がっており、2018年度には県チームが優勝している、また、加盟選手から構成されるフットサル新潟県選抜チームも2018年度に北信越大会を勝ち抜いて、久々の全国大会出場を果たしている。全国大会への参加は、選手に対して大きな刺激を与えており、全国選抜大会参加選手からFリーガーも誕生している。強化の基本は日常的なチーム／選手のトレーニングによるものであり、この点はそれぞれが意識を高めて取り組む以外に方法はないであろう。連盟ができることとしては、リーグのレベルアップ、そのためのリーグ整備（2015年度よりすでに2部化している）、選抜活動の充実が挙げられよう。選抜活動については、選抜活動のステイタスをあげることが重要であり、このことは従来より懸案となっている。</p> <p>もっともすぐにはできる可能性のあることは、選抜活動についての情報提供であろう。選抜メンバーのHPでの公開や練習風景のHP掲載など、積極的に取り組んでいきたい。また、そのための担当者の確保などが課題であろう。これまでのところ、大会参加において選手は自費参加であったが、いくらかでも連盟から経費補助することも選手の意識の上では重要であると考えられる。</p> <p>また、次世代のトップ選手であるU-23選抜活動も長野オープン大会への参加を含めて継続している。冬季リーグをU-23選抜チームの強化の意味も含めて実施しており、一定の成果は上がっていると考えられる。この年代ではまだフットサルの専門的な指導を受けたことがない選手も多く、チームのトレーニング以外で指導を受ける機会は貴重であると考えており、今後も継続していく。</p> <p>加えて、U-18選抜活動も2015年度よりスタートさせており、今後U-18、U-23、フル選抜がうまく継続していけるよう進めていきたい。</p> <p>大学フットサルについては、県内大学からの参加チームがなかなか集まらず、県大会の実施が危ぶまれている。北信越レベルでの大学フットサルリーグも2017年度より開催されており、新潟県からも参加チームがあるように、まずは大学フットサル大会、冬季リーグへの大学からの参加チームを募りたい。ただし、このところ大学フットサル大会の県大会については、参加チームが少なく県代表が新潟大学学友会サッカー部であること、冬季リーグに参加しているのも同チームのみであることから、大学フットサルリーグへの参加チームはなかなか現れてこない現状である。大学チームは中心となって活動している学生が卒業してしまうと、活動自体がなくなってしまうという現状もあり、困難さが常に存在している。</p> <p>(8) シニア年代について</p> <p>現在ではトップを退いた選手がプレーできる場は、県フットサル連盟でも、用意できていない。シニア世代のプレーの場を提供することで、連盟・委員会の活動への参加・協力も期待できる。ニーズを調査し、参加チーム／選手を掘り起こしていきたい。</p> <p>(9) ビーチサッカーについて</p> <p>第3のフットボールであるビーチサッカーについても、フットサル委員会管轄として進めていく。2015年度に日本ビーチサッカー連盟が設立され、北信越ビーチサッカー連盟も発足した。これを受け、県内でも新潟県ビーチサッカー連盟を設立して、ビーチサッカー事業を進めていきたい。</p> <p>このことと並行して、事業も展開していく。普及に関しては、ビーチサッカーのプロモートとして、一般、女子、ジュニアなどを対象に、体験会、クリニックなどを開催し、ビーチクリーン活動とも結びつけながら、小中学校とも連携を図りたい。また、柏崎市、新潟市以外のところでも、普及活動を展開し、チーム／選手増を進めていきたい。</p>		

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 6頁
1. 現状の概要と今後の方向性(つづき)		地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
<p>競技に関しては、2016年度に北信越ビーチサッカーリーグが発足した。女子フットサルと同様に、県リーグを構成するだけのチーム数が現在はないため、まずは北信越リーグをきちんと確立させ、新潟県チームがその中でしっかりと戦うこと、そのために競技力向上をはかること、などが重要であり、リーグ運営に対して、新潟県サッカー協会としてもサポートしていく必要があると考える。</p> <p>現行の競技力としては、北信越大会は常に代表権を県内チームが獲得しているものの、全国大会では実力差を見せつけられている。全国に通用する力をつけていきたい。また、女子については、サッカー協会非公認ながら東日本女子ビーチサッカーリーグを発足させ、振興をはかっている。この活動も継続させ、やがては地域での女子ビーチサッカーリーグにつなげていきたい。</p> <p>(10) 指導者、審判員の育成</p> <p>現場でのフットサル活動を支える指導者の育成は常に重要な課題である。JFAのライセンスコースもサッカーC級を同時に受講できるダイレクトコースが開設されるなど、ライセンス取得に向けての改善が図られている。また、地域リーグではチームスタッフにフットサルC級以上の指導者が必須となっており、県内チームからのライセンス保持者を増やしていきたい。</p> <p>また、ライセンス講習会以外にも内外の指導者を招いての、トップレベルクリニック、もしくは指導者講習会を開催し、県内指導者のレベルアップの機会を増やしていきたい。2017、18年度にはJFAフットサルタレントキャラバンを指導者ライセンスリフレッシュコースとして実施しており、今後も継続していきたい。</p> <p>審判員の養成については、審判委員会の担当であるが、フットサル委員会・連盟との連携なしには困難である。具体的には、大会を使つての講習会開催、強化審判員の割り当てなどに加え、現在4級で可としている県リーグのチーム帯同審判員を、北信越リーグと同様に3級以上必須とするなどの措置が考えられる。</p> <p>(11) 組織マネジメント</p> <p>ここまでん述べてきたように、フットサル・ビーチサッカーに関わって、多くの課題がある。これらの課題をクリアし、改善をはかっていくためには、組織マネジメントは不可欠である。</p> <p>ヒト：委員会・連盟の活動は、人に支えられている。指導者、審判員のみならず、大会運営を支える人、組織を運営する人が必要である。3、4種においては、それぞれの種別委員会との連携が取れていることで、人材は確保されている。2種についても、大会の担当は確立されており、大会が拡充することで、運営体制も確立されていくものと考え。女子については、チーム/選手が少ないことから、運営体制の確立もすぐには可能とまらないであろう。担当は確立しているが、担当を補佐し、組織運営に関わることのできる人材の育成が必要であろう。ビーチサッカーについても、担当は確立しているが、課題が多く山積しているため、担当のみならず、連盟として組織化していくことが必要である。もっとも競技人口が多く、県内のフットサルの中心となっている男子トップレベルであるが、連盟についてもわずかな人材が多くを動かしている現状があり、長い間改善の必要性を指摘しているにもかかわらず、進んでいない現状がある。また、各種フェスティバルを行うにも人材が必要であり、自身のプレーしていない場で運営を行うことのできる人材の育成も急務であろう。</p> <p>また、2018年度より北信越サッカー協会フットサル委員会の中に技術担当者を置くこととなり、各県での技術担当を置くこととなった。これにより、県フットサル委員会に技術担当1名を置き、強化と指導者養成に関して進めていくこととなった。また、このフットサル委員会技術担当は、県サッカー協会技術委員会内のフットサル担当も兼務することで、サッカーとフットサルの技術関連事項についての連絡役も果たすこととなっている。</p> <p>カネ：大会、フェスティバルの充実、選抜活動の充実、組織拡充には経費の捻出が不可欠である。大会スポンサーについては、県大会レベルで獲得することは困難であり、全国大会の予選として協賛金を得ていきたい。JFAの支援金も積極的に活用し、諸活動に反映させていきたい。</p>		

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 7頁
1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）		地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
<p>モノ：選抜関連の備品、消耗品、電光掲示板、デジタイマ、ファウルカウンタ、などの管理、入れ替えについては常に留意していく必要がある。</p> <p>情報：フットサルのプロモート、情報発信などが1つめのポイントである。公式サイトを充実させ、大会情報、選抜情報などの他にも、県内のフットサルに関する情報の発信基地として位置付けたいと考えている。しかし、このために情報収集を専門的に行うことはできない。そこで、双方向の情報ツールとしてSNSの有効活用を考えていきたい。このためにも専任の担当者は不可欠であると考ええる。</p> <p>情報に関しての2つめのポイントは、組織内のコミュニケーションである。種別、地区、委員会、連盟、さらには民間ピッチ、それぞれが課題を共有し、業務を分担し、連携するためにも、また、より多くの人材が組織に関わるためにも、円滑なコミュニケーションを図っていきたい。</p> <p>(12) 地区の現状と今後</p> <p>上越地区：2018年度には、北信越リーグに1チーム、県リーグに3チームが参戦している。また、上越協会主催大会として、謙信公杯が開催されているが、フットサル活動が盛んというわけではない。北信越リーグの上越地区開催などにより、競技フットサルの知名度を上げつつあり、上記の3チームを中心として、フットサルを振興していきたい。</p> <p>また、このところファミリーフットサルフェスティバルの開催がないため、再開、継続を図りたい。</p> <p>中越地区：2、3、4種に関しては、県内フットサルの中心とも言える地区である。このため、中越地区リーグが開催できるほどのニーズがある。また、中越地区リーグから多くのチームが県リーグに活動の場を移しており、長岡、三条を中心とした地区北部での活動は盛んである。ただ、中越地区は魚沼、十日町方面も地区に含んでおり、これらでの振興策は容易には見つかっていない。また、各種別関係者の連携により、地区としてのフットサル振興も課題であると考えている。</p> <p>下越地区：下越北地区を中心に下越リーグが開催されているが、下越南地区では大人のチームの活動が見られていない現状である。地区としては会場の確保がとて厳しく、特に大人に関しては、門戸が狭い現状が競技力低下や選手確保の困難さにつながっている。ファミリーフットサルフェスティバルについては、このところ年度内に2回開催し毎年200名程度の参加者があるが、参加者の継続性もあり、十分に定着してきているといえよう。</p> <p>新潟地区：北信越リーグ、県リーグともに多くのチームが参加している。しかし、人口から考えると、公式試合に出場するチーム/選手は多くはないとも考えられる。ただ、新潟市内には民間フットサルピッチも多く、エンジョイプレーヤーと競技者が分かれてきている現状をうかがい知ることができる。また、マンパワーの面からは、県組織の代表者が新潟地区の運営も担当している現状があり、新たな人材の参入が求められる。</p> <p>(13) その他</p> <p>ここまでの中で触れてきていたが、「民間ピッチとの関係」「種別、地区、委員会、連盟の連携」は、重要な課題であり、積極的に進めていく必要がある。</p> <p>また、常に課題となっていることであるが、大会・フェスティバルを拡充させていくために、会場の確保は重要である。さらに、2015年度から、会場となる体育館使用料がいくつかの自治体で高騰してきており、会場確保、使用料減免、自治体とのパイプ役などに関しても、地区委員会の協力が不可欠である。</p>		

2. 中期目標（2030年）

地区協会
フットサル 委員会
フットサル 連盟

・フットサル登録者数が1000人、j-futsal登録者数が3000人となる（2014年度より、以前の個人登録から、競技者向けのJFAフットサル登録と愛好者向けのj-futsal登録（永年登録）に整理された。また、2、3、4種、ならびに女子の大会では、サッカー登録のみで大会に参加できることとなったため、アクションプラン2015から修正されている。ここでのフットサル登録者数の大半は1種年代競技者である）

2018年度新潟県フットサル登録者数 551人、2015年度中途でのj-futsal登録者数800人

・全ての大会で県大会を行って北信越大会へ県代表を送る。全国大会の半数以上に出場し、全国大会のいずれかでベスト4に入り続ける

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
2017 全日本選手権	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
2018 敗退 北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
チャンピオンズリーグ	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
敗退 北信越敗退	全国出場	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
大学大会	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	全国出場	北信越敗退	北信越
敗退 全国出場	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
女子大会	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
敗退 北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
ユース (U-18) 大会					-----	全国ベスト8	全国ベスト8	全国優
勝 全国準優勝	全国優勝							
ユース (U-15) 大会	全国準優勝	全国出場	全国出場	全国優勝	全国優勝	全国優勝	全国優勝	全国優
勝 全国準優勝	全国3位							
女子ユース (U-15) 大会	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
敗退 北信越敗退	北信越敗退							
全日本少年大会	全国ベスト8	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国出
場 全国出場	全国出場							
ビーチサッカー大会	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国出場	全国優
勝 全国出場	全国出場							
全国選抜大会	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
敗退 北信越敗退	全国出場							
U-23選抜大会	大会出場	大会出場	大会出場	大会出場	大会不参加	大会ベスト4	大会出場	全国出
場 全国出場	全国出場							
女子選抜大会	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越敗退	北信越
敗退 北信越敗退	北信越敗退							
ユース選抜大会					-----	全国出場	全国優勝	全国優
勝 全国出場	(出場予定)							

※ 全日本少年フットサル大会には県代表がそのまま出場する

- ・フットサル全国リーグ（Fリーグ）参加チームがある（2018年度までに実績なし）
- ・ビーチサッカー全国リーグ参加チームがある（2018年度現在では全国リーグがなく、実績なし）
- ・全国規模の大会の主管実施運営（2018年度までに実績なし、2019年度国際大会実施予定）
- ・Fリーグ、ビーチサッカー全国リーグに新潟県出身選手を輩出する（Fリーグ：2018年度1名、2019年度よりさらに1名予定）
- ・フットサル日本代表、ビーチサッカー日本代表に選手を輩出する（フットサル日本代表：2018年度実績なし、過去に数名）

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の 9頁
2. 中期目標（2030年）（つづき）		地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
<p>・U-18フットサル大会では16チーム以上、大学フットサル大会、女子フットサル大会、女子ユースフットサル大会では8チーム以上の参加チームがある</p> <p>・県女子リーグと県2種リーグを開始する</p> <p>・北信越女子フットサルリーグ、北信越大学フットサルリーグに継続して参加するチームがある（2018年度現在、女子2チーム、大学実績なし）</p> <p>・ファミリー、ママ、レディース、キッズなどのエンジョイレベルを対象としてフットサルフェスティバルを継続的に実施する</p> <p>・各地区リーグ、市町村協会事業をサポートすることで、県内全域でのフットサル、ビーチサッカーが普及が図られている</p> <p>・県協会組織と地区協会組織が90%程度一致し、連携している中で、地区・市町村協会のフットサル委員会・連盟が活発に活動している</p> <p>・県フットサル連盟、県ビーチサッカー連盟は加盟チームによる運営が行われ、自主的かつ自立して事業展開している</p> <p>・フットサルがプレーできる施設の開拓・確保は常に課題であり、この時点では大会運営に支障がない程度には確保できるようになっている</p>		

NIFAアクションプラン2018→2022		全体 4頁中の10頁
3. 長期目標（2050年）	地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟	
<p>・フットサル登録者数が2000人、j-futsal登録者数が6000人となる 2018年では、2、3、4種、ならびに女子の大会では、サッカー登録のみで大会に参加できているため、アクションプラン2018から下方修正 ここでのフットサル登録者数の大半は1種年代競技者、ならびに女子・2種リーグ参加者である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子リーグが継続して開催されている ・2種リーグが継続して開催されている ・全国大会のいずれか複数大会でベスト4に入り続ける ・Fリーグ、ビーチサッカー全国リーグに継続して参加チームがある ・フットサル日本代表、ビーチサッカー日本代表に選手を継続して輩出する ・全国規模の大会を定期的に誘致し、実施する ・ファミリー、ママ、レディース、キッズなどのエンジョイレベルを対象としてフットサルフェスティバルを継続的に実施する ・各地区リーグ、市町村協会事業をサポートすることで、県内全域でのフットサル、ビーチサッカーが普及している ・県協会組織と地区協会組織が一致し、連携している中で、地区・市町村協会のフットサル委員会・連盟が活発に活動している ・県フットサル連盟、県ビーチサッカー連盟は加盟チームによる運営が行われ、自主的かつ自立して事業展開し続けている ・フットサルがプレーできる施設については、この時点では大会運営に支障がない程度には確保できるようになっている 		

NIFAアクションプラン2018→2022					全体 4頁中の11頁
4. 現状分析					地区協会 フットサル委員会 フットサル連盟
No. と 事項	2022年具体的目標	2018年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1. 普及	JFAフットサル登録者数 800人	JFAフットサル登録者数 551人	70%	<p><リーグの充実> <参加チーム/選手の増加></p> <p>1. 地区リーグ、市町村リーグへのサポート</p> <p>地区、市町村リーグのレベルアップ</p> <p>地区、市町村での選手の意識改革</p> <p>競技フットサルに触れる機会増</p> <p>2. ユース年代、U-23年代の選手増</p> <p>現チームの選手増 新チームの結成</p> <p>現チームの若手選手増</p> <p>3. 冬季リーグの充実</p> <p>充実した冬季リーグ チャンピオンズリーグの意義の吸収</p> <p>1種年代のリーグ参加者増</p> <p>2種年代プレーヤー/チーム増</p>	<p><地区、市町村での競技フットサルのプロモート></p> <p>地区、市町村リーグへの運営ノウハウの伝達</p> <p>クリニックなどの開催</p> <p>県リーグ、北信越リーグの県内各地区での実施</p> <p><高校卒業後のプレー機会づくり></p> <p>U-18大会参加チーム/選手増やす U-18選抜の活性化-JFA支援金の活用</p> <p>HPなどでのフットサルチームの紹介 選手とチームの橋渡し</p> <p>北信越リーグ、県リーグ、選抜活動などの紹介情報の展開</p> <p>U-23選抜活動の充実 高校生にも門戸を開く</p> <p><冬季リーグの位置付けの明確化と告知></p> <p>競技フットサルへの入門</p> <p>県フットサルリーグへの橋渡し</p> <p>U-23選抜の強化</p> <p>U-18チーム参加の検討</p> <p>実施体系の確立</p>
2. 普及	j-futsal登録者数 1200人 (退会しなければ永年登録)	j-futsal登録者数 800人	67%	<p><フェスティバル充実を中心としたj-futsal登録者数の増加></p> <p>1. フェスティバルの充実</p> <p>フェスティバル参加チーム/選手を増加</p> <p>2. j-futsal登録の徹底</p> <p>j-futsal登録人数が増加</p> <p>3. j-futsalの魅力アップ</p> <p>j-futsalへのアクセス回数増加</p> <p><民間ピッチとの連携でプレーしてみる経験を増やす></p> <p>民間ピッチでのクリニック、大会などでのプレー経験者の増</p>	<p><フェスティバルの魅力アップと情報提供力のアップ></p> <p>フェスティバル告知の改善</p> <p>付帯イベントの魅力アップ</p> <p>フェスティバル参加申し込みのオンライン化(j-futsal利用)</p> <p>JFA支援金の活用</p> <p><j-futsal登録についての認識アップ></p> <p>フェスティバル要項でのアナウンス、申し込み時の確認、会場での入会補助</p> <p>フェスティバル参加申し込みのオンライン化(j-futsal利用)</p> <p><j-futsalの情報提供の充実></p> <p>県内記事、身近な記事の掲載</p> <p><民間フットサルピッチとの連携></p> <p>情報の相互提供</p>
3. 普及	より多くの方にフットサルを知っていただく	フットサルを知る人が増加してきている	50%	<p><フットサル情報の少なさ></p> <p>フットサル情報が十分に提供されていない</p> <p>見て楽しい、ハイレベルな試合が観られない</p>	<p><フットサル情報の展開></p> <p>ICTの活用、ホームページの充実 SNSの活用</p> <p>マスメディアでの露出増</p> <p>国際・全国大会誘致、Fリーグ試合の誘致</p> <p>Fリーグ加盟チームの育成</p>

4. 普及	ビーチサッカーの知名度を上げる	ビーチサッカーの知名度が低い	15%	<ビーチサッカー情報の少なさ> 聞いて知っている人を増やす やったことのある人を増やす より高いレベルでプレーする女子を増やす	<ビーチサッカー情報の展開> ↓ ICTの活用、ホームページの充実 SNSの活用 マスメディアでの露出増 ビーチサッカーを経験してみる機会創造 クリニック、フェスティバル、 ビーチ保全活動とのリンク 東日本女子ビーチサッカーリーグの充実
5. 普及	シニアリーグの設立	シニアリーグ設立に向けて、少なくとも プレ大会が行われている	0%	<ニーズ調査、運営担当者などの準備が 進んでいない> 準備を進め、プレ大会実施にこぎつける	<設立に向けて準備を始める> ↓ 参加チーム/選手の可能性を探る プレ大会を開催し、参加者からも意見聴取 運営ができるマンパワーを見つける
6. 強化	全国チャンピオンズリーグへの出場 (毎年目指す) 全日本選手権への出場 (毎年目指す) 全国選抜大会への出場 (毎年目指す)	北信越リーグ優勝2007年度、2018年度 北信越大会優勝2007年度 決勝までに数回進んでいる 北信越大会優勝2009年度、2018年度	50% <トップ年代の強化> 1. 単独チームの強化 ○北信越リーグチームの強化 ○連盟加盟チームの強化 50% 単独チームとしての競技力アップ 各大会での戦績のアップ 2. リーグのレベルアップ 選手の競技力アップ チームの競技力アップ 試合数の増加 3. リーグのステイタスアップ 参加チーム主体でちゃんとリーグ運営を行う リーグの認知度のアップ、観客増員 30% 4. 選手の強化 選手の競技力アップ チームの競技力アップ 選抜大会成績のアップ 5. 選手、選抜チーム強化の基盤作り 充実した強化の基盤の確立、財政基盤の確立 6. 選抜活動のステイタスアップ スタッフ、選手の負担減 リーグの認知度のアップ、観客増員	<指導者の指導力アップ> ↓ 専任指導者を増やす クリニック開催 クリニック受講者増 <リーグの充実> ↓ 競技志向参加チーム/選手の増加 リーグ開催方式の検討 十分な会場の確保 <リーグ運営内容、スキルのアップ> ↓ 正確なピッチ設営 ユニフォーム既定の遵守 諸手続きの正確な実行 情報担当者の設置、情報公開 <選抜活動の充実> ↓ フル選抜活動の期間・回数増 U-23選抜活動の充実・フルとの連携 選抜チームのステータスアップと ともに選手の意識改革、行動改革 <県協会、技術委員会との連携> ↓ 技術委員会との協力関係の構築 財政基盤確立への県協会のサポート <リーグ運営内容、スキルのアップ> ↓ 財政基盤の確立 情報担当者の設置、情報公開	
7. 強化	Fリーグ準加盟チームがある	Fリーグ準加盟チームがない	30%	<チーム準加盟申請の準備完了> 準加盟チームとしての準備の完了 準加盟申請の実行	<県協会との連携強化> ↓ チームへの指導 協会との橋渡し
8. 強化	全国リーグがあれば参加チームがある 北信越ビーチサッカーリーグに複数 チームが継続して参加している	ビーチサッカー全国リーグ参加チームが ない	50%	<ビーチサッカー全国リーグへの機運醸成> 全国各地域リーグの確立の一環としての 北信越リーグの充実 <北信越リーグ参加チームの競技力向上>	<北信越ビーチサッカーリーグの盛り上げ> ↓ 他県への参加チーム増への働きかけ JFA支援金の活用 <チームの競技力向上へのサポート>

					<p>指導者の指導力アップ</p> <p>↓</p> <p>専任指導者を増やす</p> <p>↓</p> <p>クリニック開催</p> <p>↓</p> <p>クリニック受講者増</p> <p>↓</p> <p>単独チームとしての競技力アップ</p> <p>↓</p> <p>各大会での戦績のアップ</p> <p>↓</p> <p>全国リーグ発足時に参戦する</p>
9. 強化	<p>大学大会参加チームが不安定</p> <p>全国大会は2014年度出場</p> <p>北信越大学リーグ・ブレ大会に参加</p> <p>北信越レベルで大学リーグ開催の方向</p>	<p>県大会を4チーム以上で継続的に行う</p> <p>全日本大学大会への出場</p> <p>(毎年目指す)</p> <p>北信越大学フットサルリーグの設立</p> <p>複数チームの参加</p>	<p>30%</p> <p><大学フットサル団体へのサポート、 公式大会への出場促進></p> <p>↓</p> <p>公式の大学大会にも</p> <p>参加チーム数増加し、安定</p> <p>10%</p> <p>北信越大学フットサルリーグへの</p> <p>参加チームの誕生</p>	<p><プレー機会を増やす></p> <p>↓</p> <p>気軽に参加できる大会の開催</p> <p>↓</p> <p>競技志向の大学生プレーヤーの増加</p>	
10. 強化	<p>U-18大会全国大会ベスト4以上</p> <p>(毎年目指す)</p> <p>普及</p> <p>U-18大会参加チーム8チーム以上</p> <p>普及</p> <p>県2種リーグの設立</p> <p>強化</p> <p>U-18選抜活動の継続実施</p>	<p>U-18大会全国大会ベスト4以上</p> <p>(毎年目指す)</p> <p>参加チーム4チーム程度</p> <p>2種対象のフットサル体験会や</p> <p>JFAタレントキャラバンを行った</p> <p>県2種リーグがない</p> <p>U-18選抜活動を実施してきているが、</p> <p>今後の継続には課題が多い</p>	<p>100%</p> <p><2種サッカーチームにおける ニーズの掘り起こし></p> <p>50%</p> <p>2種チームの大会参加増</p> <p>10%</p> <p>準備を進め、ブレ大会実施にこぎつける</p> <p>80%</p> <p>選抜活動の充実</p> <p>↓</p> <p>競技フットサルを志向する2種選手の強化</p> <p>意識改革</p> <p>↓</p> <p>1種年代への連続</p>	<p><2種チームへのプロモート></p> <p>↓</p> <p>大会スケジュールの調整を続ける</p> <p>↓</p> <p>2種担当を組織し、活動する</p> <p>↓</p> <p>体験会、クリニックなどの実施</p> <p><設立に向けて準備を始める></p> <p>↓</p> <p>参加チーム/選手の可能性を探る</p> <p>↓</p> <p>ブレ大会を開催し、参加者からも意見聴取</p> <p>↓</p> <p>県冬季リーグへの参加も検討</p> <p>↓</p> <p>運営ができるマンパワーを見つける</p> <p>↓</p> <p>公式大会休止による課題の洗い出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加希望選手、可能選手の減少 ・選手選考の範囲、選考ポリシー ・指導者選任 ・経費捻出 <p>↓</p> <p>課題を解決</p>	
11. 強化	<p>U-15大会全国大会優勝</p> <p>(毎年目指す)</p>	<p>数回の全国優勝、毎回上位進出</p>	<p>100%</p> <p><3種の活動のさらなる充実></p> <p>↓</p> <p>全国大会での上位安定</p> <p>↓</p> <p>選手の競技力アップ</p> <p>↓</p> <p>3種大会参加チーム/選手の増加への核続</p>	<p><さらに充実させるための課題発見></p> <p>↓</p> <p>3種担当を中心に、課題検討</p> <p>↓</p> <p>協会の3種活動の中での</p> <p>フットサルの位置付けの確立</p>	
12. 強化	<p>女子大会、女子ユース大会、女子選抜</p> <p>大会などで北信越敗退が続く</p> <p>女子大会参加チーム8チーム以上</p> <p>普及</p> <p>県女子リーグの設立</p> <p>強化</p> <p>女子選抜活動の継続実施</p>	<p>全国大会出場</p> <p>(毎年目指す)</p> <p>参加チーム5、6チーム程度</p> <p>県女子リーグはない</p> <p>ブレ大会やクリニックが行われている</p> <p>女子選抜活を実施してきているが、</p> <p>より充実させる必要がある</p>	<p>30%</p> <p><競技フットサルに取り組む選手数、 チーム数を増やす></p> <p>70%</p> <p>大会参加チーム/選手数の増加</p> <p>北信越大会での成績のアップ</p> <p>25%</p> <p><ニーズ調査、運営担当者などの準備が 進んでいない></p> <p>ブレ大会、クリニックの継続</p> <p>その他必要な施策により実施にこぎつける</p> <p>80%</p> <p>選抜活動の充実</p> <p>↓</p> <p>競技フットサルを志向する女子選手の強化</p> <p>意識改革</p> <p>↓</p> <p>女子選手/チームの競技力アップ</p>	<p><女子へのプロモート></p> <p><女子のプレー機会を増やす></p> <p>↓</p> <p>気軽に参加できる大会・</p> <p>フェスティバルの開催</p> <p>↓</p> <p>JFA支援金の活用</p> <p>↓</p> <p>競技志向の女子プレーヤーの増加</p> <p><設立に向けて準備を始める></p> <p>↓</p> <p>参加チーム/選手の可能性を探る</p> <p>↓</p> <p>ブレ大会、クリニック実施</p> <p>参加者からも意見聴取し、新たな施策の検討</p> <p>↓</p> <p>運営ができるマンパワーを見つける</p> <p>↓</p> <p>課題の洗い出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加希望選手、可能選手の少なさ ・選手選考の範囲、選考ポリシー ・指導者選任 ・経費捻出 <p>↓</p> <p>課題を解決</p>	
13. 強化	<p>北信越女子リーグへの参加の継続</p>	<p>2チーム参加している</p>	<p>100%</p> <p><リーグの開催とチームの継続的 参加へのサポート></p> <p>↓</p> <p>リーグの安定した運営</p> <p>↓</p> <p>チームが継続的に参加</p>	<p><リーグ運営へのサポート></p> <p>↓</p> <p>リーグ運営への直接的サポート</p> <p>↓</p> <p>参加チームの運営力アップへの指導</p>	

				↓ チームの活動、競技力がアップ	
14. 強化	県リーグチームに複数の3級審判員がいる	県リーグチームに複数の3級審判員がいないチームがある	60%	<各チームで複数の3級審判員を育成する> まずチームで1名の3級審判員を育成する ↓ 引き続き、複数名取得を促すことで複数3級審判員を実現させていく ↓ いずれは専任審判員として活動してもらおう	<チームの意識改革と講習会の複数回開催> ↓ 県リーグの参加規程での3級審判員を義務付けを徹底させる ↓ 審判委員会と協力して複数回の3級昇級講習会を実施する ↓ 新規参入チームには、期限を設けて3級審判員を取得させる
15. 組織	フットサル連盟が参加チーム主体で運営されている	大会運営については、参加チーム主体で運営されている	25%	<組織運営の経験者がいない> 組織運営の経験を持ったものを増やし、参加チーム主体の運営を増やしていく ↓ いずれは参加チーム主体に移行していく	<チーム関係者に組織の運営を経験させる> ↓ すぐに任せられる業務を洗い出し、ノウハウを伝えながら業務を経験させる ↓ 業務経験者を増やし、次第に中核的な業務についても経験させていく ↓ 組織を変革し、多くのマンパワーが関わるようにする
16. 組織	県ビーチサッカー連盟が設立されている	県フットサル連盟が設立されていない中心的な2チームが主導的に大会運営を行っている実質的に2チームのみ存在	25%	<連盟設立の準備ができていない> 県ビーチサッカー連盟設立の準備を整う ↓ 県ビーチサッカー連盟が設立される	<連盟設立の準備を進める> ↓ チーム/選手の増加 ↓ 連盟立ち上げの段階から多くのマンパワーを組織に参加させる
17. 組織	委員会・連盟に広報担当を置き、特にITCを用いた情報提供を進める	委員会・連盟に広報担当がいない	10%	<任せられる人材のあてがない> 広報担当の設置 ↓ 1. ホームページの充実 ・大会告知、参加チーム募集 ・フットサルチームの紹介 ・選抜活動の紹介 ・県内のフットサル情報の掲載 ・インタビュー記事などの掲載 etc. 2. SNSの活用 双方向、かつよりダイレクトな情報ツールとしてのSNSの活用を検討 3. リーグスポンサーに北信越リーグ、県リーグのポスターと結果の店内掲載を依頼	<任せられる人材を加盟チームの中から探す> ↓ 加盟チームの中から募集する ↓ 情報関係の専門学校、大学等との連携も検討
<上越地区> 1、普及	ファミリーフットサルフェスティバル再開参加者150人	ファミリーフットサルフェスティバル実施が途切れている	67%	<フェスティバル回数、チーム増> 市町村協会と連携 <告知方法の工夫> 簡単なエントリー方法確立 参加チーム増加	運営ノウハウの提供 イベントのインフォメーション HPから申込可能に SNSで関係者にシェアしてもらおう
2、普及	地区としてのフットサル振興	地区としてのフットサルに盛り上がり低い	40%	フットサルの知名度アップ	地区フットサル・サッカー関係者との連携 北信越大会・リーグなどへの観客動員 フェスティバルなどのイベント実施
<中越地区> 1、普及	ファミリーフットサルフェスティバル安定実施参加者200人	ファミリーフットサルフェスティバル実施が不安定	80%	<告知方法の工夫> 簡単なエントリー方法確立 参加チーム増加 2種から1種への橋渡し	イベントのインフォメーション HPから申込可能に SNSで関係者にシェアしてもらおう 2種チームが参加しやすいよう 参加条件緩和
2、普及	地区としてのフットサル振興	種別それぞれの盛り上がりはあるが、地区としての関係に乏しい	40%	地区として目指す状況の目標設定 ↓ 目標に向けての役割分担と実施	地区フットサル・サッカー関係者との連携 地区委員会としての組織づくり フェスティバルなどのイベント実施
<下越地区> 1、普及	チャレンジリーグ参加 18チーム	チャレンジリーグ参加 8チーム(2018年) (2015年には18チームが参加の実績あり)	60%	<リーグの充実> 会場の分散、確保 市町村協会と連携	近隣市町村単位で会場を確保して 予選リーグを開催

				2種から1種への橋渡し	2種チームが参加しやすいよう 参加条件緩和
2、普及	ファミリーフットサルフェスティバル 参加者 300人	ファミリーフットサルフェスティバル 参加者 200人	67%	<フェスティバル回数、チーム増> 市町村協会と連携 <告知方法の見直し> 簡単なエントリー方法確立 参加チーム増加	会場を分散させて参加者の 掘り起こしをする 運営ノウハウの提供 イベントのインフォメーション HPから申込可能に SNSで関係者にシェアしてもらう
3、強化	県リーグ参加 4チーム	下越からの県リーグ参加なし (ピーク時2チーム参加実績)	20%	<チャレンジリーグ 参加チームのレベルアップ> 選手のレベルアップ チームのレベルアップ レフリーのレベルアップ	県リーグの試合をエキジビション マッチとしてチャレンジリーグ 開催中同会場にて行う 講師を招いてクリニック開催 指導者、レフリー 招待チームを招いての強化試合を 開催
<新潟地区> 1. 普及	ファミリーフットサルフェスティバル ファミリー参加チーム16 レディース、ミックス参加チーム8	ファミリーフットサルフェスティバル ファミリー参加チーム8程度 レディース、ミックス参加チーム4程度	50%	<ファミリーフットサルフェスティバル の充実> フェスティバル参加チーム/選手を増加	<フェスティバルの魅力アップと 情報提供力のアップ> <新潟地区担当者の就任> ↓ フェスティバル告知の改善 付帯イベントの魅力アップ フェスティバル参加申し込みのオン ライン化(j-futsal利用) JFA支援金の活用
2. 組織	新潟地区委員会を組織化する	新潟地区委員会が明確に活動していない	15%	<新潟地区委員会の事業の明確化> <新潟地区委員会に関わるマンパワーの発掘> 各種フェスティバルの開催と充実 チャレンジリーグの充実	<新潟地区として行う事業の洗い出し> <事業に応じた人材探し> ↓ 新潟地区としての事業ニーズの調査 民間ピッチとの連携も検討
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2018年目標に向けての2015年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

NIFAアクションプラン2018→2022					全体 4頁中の12頁
5. 具体的アクション					地区協会 フットサル 委員会 フットサル 連盟
No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1-1	地区委員が	2022年度までに	各地区で	地区フットサルリーグを 市町村フットサルリーグを	開催し、充実させる 開催し、充実させる
1-2 10	県フットサル委員会 ・連盟が	2019年度以降	2種委員会と連携して	U-18大会参加チームを U-18大会日程の2種カレンダーでの	増やすよう働きかける 位置付けを確立させる
1-2	県フットサル委員会 ・連盟が	2019年度以降	U-18選抜大会に U-18選抜活動に	U-18選抜を派遣する基盤を 県協会からの補助金を	作る 継続して獲得する
1-2 6-4	県フットサル 連盟が	2019年度以降		県リーグに参加する高校生年代の 選手を	増やすよう働きかける
1-2 6-4	県フットサル 連盟が	2019年度以降		U-23選抜チーム活動を	さらに充実させる
1-3	県フットサル 連盟が	2019年度以降	冬季リーグに	2種選手/チームが出られるよう	整備士、関係者に働きかける
2-1	県フットサル 委員会が	毎年	各地区での	フェスティバルを フェスティバル情報を	開催し、充実させる 広く広報する
2-2	県フットサル 委員会が	毎年	フェスティバル要項で フェスティバル案内で	j-futsalについて	広く広報する
2-3 3	県フットサル 委員会・連盟が	毎年	j-futsal、その他の媒体で	県内情報について	掲載情報を提供する
3 17-1	県フットサル 連盟が	2019年度のうちに		広報担当者、公式ホームページ 管理者を	変更、確立させる
3	県フットサル 連盟の広報担当が	2019年度のうちに		公式ホームページを	作り変え、更新する
3 17-1	県フットサル 委員会が	2019年度のうちに		広報担当を 委員会公式ホームページを 連盟公式ホームページと	新設し 立ち上げ 相互リンクし、情報発信する
3	県フットサル 委員会が	2019年度以降		県協会と協力して 全国規模の大会を	誘致し、開催することに努める
3	県フットサル 委員会が	2019年		国際大会（日本代表戦）を	全力を挙げて成功させる
4	ビーチサッカー 担当者が	2019年度以降		公式ホームページを 委員会公式ホームページと	充実させ 相互リンクする
4	ビーチサッカー 担当者が	2019年度以降	県内各地で	ビーチサッカーフェスティバル、 クリニックを	開催する
5	県フットサル 連盟が	2020年度までに	県内で	シニアリーグ開催に向けた プレ大会を	開催する
6-1	県フットサル 連盟が	2019年度以降	加盟チームに対して	専任指導者増加を 指導者クリニック・講習会を	促す 開催し、参加を促す
6-2	県フットサル 連盟が	2019年度以降		正規ピッチを作れる会場を リーグ開催方法を	より多く確保する 検討する
6-3	県フットサル 連盟が	2019年度以降	リーグ参加チームに対して	リーグステイタスアップに	努めるよう指導する
6-4 6-6	県フットサル 連盟が	2019年度以降		県フットサル選抜の期間、回数を 県フットサル選抜のステイタスを	増やし、充実させる アップさせる

6-5	県フットサル委員会が	2019年度以降		県フットサル選抜チーム／選手の強化基盤確立のため	県協会、技術委員会との協議を始める
7	県フットサル委員会・連盟が	2019年度以降	県協会と協力して	Fリーグ参加希望チームを	指導する
7	Fリーグ参加希望チームが	2022年度までに	県協会、県フットサル委員会・連盟の指導のもとで	Fリーグ準加盟を	申請する
8-1	県フットサル委員会・連盟が	2019年度以降	県協会と協力して	全国ビーチリーグ参加希望チームを	指導する
8-1	県フットサル委員会・連盟が	2019年度以降		北信越ビーチサッカーリーグを参加チームを	指導、サポートし、サポートする
8-2	ビーチサッカー担当者が	2019年度以降		専任指導者増加を指導者クリニック・講習会を	促す 開催し、参加を促す
9	県フットサル委員会が	2019年度以降		県内大学にフットサルチーム増を大学生フットサルプレーヤー、チームを	働きかける サポートする
9	県フットサル委員会・連盟が	2019年度以降 2019年度以降		気軽に参加できるプレ大会を 北信越大学フットサルリーグ参加チームがあるよう、チーム、選手を	開催し、増やす 発掘し、サポートする
10	県フットサル委員会、及び2種担当が	2019年度以降		2種の状況に合わせて参加チームを	大会を開催し、増やす
10	県フットサル委員会、及び2種担当が	2019年度以降		2種各チームに働きかけ参加チームを	増やす
10	県フットサル委員会、及び2種担当が	2019年度以降		U-18選抜活動が継続できるよう U-18選抜対抗戦の実施を U-18選抜公式大会が開催されるよう	指導者、選手をサポートする サポートする 要望を続けていく
11	県フットサル委員会が	2019年度以降も	3種委員会と連携して	県内大会をさらに充実させるための課題を	充実させる 発見し、解決を図る
12	県フットサル委員会が	2019年度以降も	女子委員会と連携して	競技フットサルに取り組む女子・女性の選手数の	増加を図る
12	県フットサル委員会が	2019年度以降も		女子チームに協力、指導する人材を	発掘し、サポートする
12	県フットサル委員会が	2019年度以降も		女子選抜チームを	継続し、サポートする
13	県フットサル連盟が	2019年度以降も		北信越女子フットサルリーグに参加するチームを	発掘し、継続してサポートする
13	県フットサル連盟が	2019年度以降も		北信越女子フットサルリーグ運営を	サポートする
14	県フットサル委員会・連盟が	2019年度以降も	審判委員会と連携して	フットサルチームでの審判員増に審判員増への	努め 方策を検討、実施する
14	県フットサル委員会・連盟が	2019年度以降も	審判委員会と連携して	フットサル3級以上の審判員増に人材の 審判委員会の講習開催に	努め 発掘を図り 協力する
15	県フットサル連盟が	2019年度以降も		リーグ参加チームに運営担当者の	自主的な運営を促し、スキルアップを促す
15	県フットサル連盟が	2019年度から		連盟運営に加盟チーム関係者を	登用する

16	県フットサル委員会が	2020年度までに		県ビーチサッカー連盟を 北信越フットサル連盟にも	発足させ、サポートする 協力して、充実させる
17-1 3	県フットサル委員会が	2019年度のうちに		広報担当を 委員会公式ホームページを 連盟公式ホームページと	新設し 立ち上げ 相互リンクし、情報発信する
17-2	県フットサル連盟の広報担当が	2019年度から		SNS活用を	検討し、実行する
17-3	県フットサル連盟の広報担当が	2019年度から		ポスターを リーグスポンサーに	作成し、 ポスター掲載を依頼する
<上越地区>					
1	地区フットサル委員会が	2019年度から		ファミリーフットサルフェスを	再開し、継続する
2	地区フットサル委員会が	2019年度以降		地区サッカー・フットサル関係者と 地区の課題を 解決に向けて	協力しながら 洗い出し、 アクションを起こす
<中越地区>					
1	地区フットサル委員会が	2019年度から		ファミリーフットサルフェスを	安定して実施し、継続する
2	地区フットサル委員会が	2019年度以降		地区サッカー・フットサル関係者と 地区としての方向性・目標を 解決に向けて	協力しながら 定め、 アクションを起こす
<下越地区>					
1	地区フットサル委員会が	2019年度以降	下越地区において	市町村協会と連携して 下越チャレンジリーグを 2種チームもリーグに参加できる よう、	市町村予選を行って 充実させる 参加条件を緩和したこともあり、 大会を継続していく
2	地区フットサル委員会が	2019年度以降	下越地区において	市町村協会と連携して 複数地区でのフェスティバル開催を j-futsalを活用したり、HPからの 申し込みを可能にし	実行しており、より充実させていく 簡単にエントリーできるようにする
3	地区フットサル委員会が	2019年度以降	下越地区において、県フットサル連盟と連携し、	県リーグに参加を希望するチームを 県リーグに参加するチームを	発掘し、サポートし、 誕生させる
<新潟地区>					
1	地区フットサル委員会が	2019年度以降		フェスティバル告知を 付帯イベントの魅力を 参加申し込みを JFA支援金を 参加チーム/選手を	改善し アップし オンライン化し 活用して 増やす
2	地区フットサル委員会が	2019年度以降	県フットサル委員会の指導のもとで	新潟地区としてのニーズを 民間ピッチの活用も フェスティバル、普及リーグの	調査し 検討して 開催と充実を図る
↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です					